

民間譲渡するなら、まずは地元最優先で (株)杜氏の郷について一般質問しました

6月議会の17日、一般質問の最終日でした。私は午後から登壇し、豪雪対策、(株)杜氏の郷、米対策について質問しました。以下は(株)杜氏の郷についての質問の概要です。

上越市吉川区はかつて数百人の男衆が酒造りに出る出稼ぎの町でした。杜氏数は全国で一番多く、地元の県立高校には「醸造科」がありました。

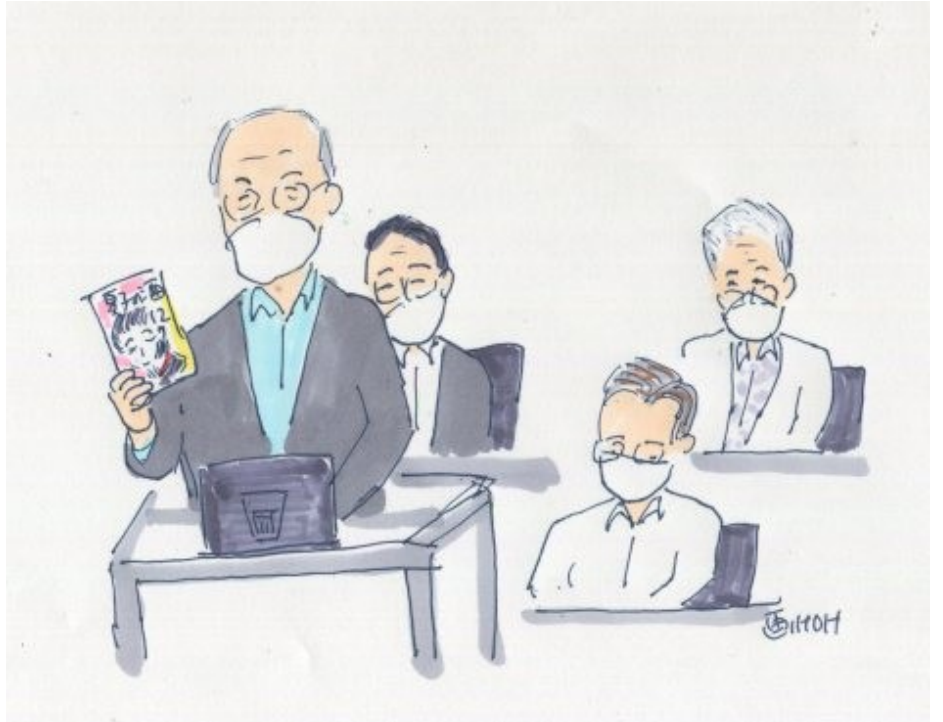
平成11年、「酒造文化と技術の継承を通じて、町の発信、産業の振興に寄与すること」を目的に、酒造りをする第三セクター、「(株)よしかわ杜氏の郷」が誕生しました。しかし、経営的には厳しく、設立から23年経った今年、最大株主である上越市は、この第三セクターを民間に譲渡する方針を打ち出しています。

この日の一般質問で私は、このことを取り上げました。「地元吉川区以外の会社に譲渡しやすくするのはないか」という心配が一部にあるなかで、私は、昨年12月の市議会文教経済常任委員会で、当時の小田産業観光交流部長が、「まずは地元企業への譲渡の可能性を探ってまいりたい」と述べたことを確認し、譲渡にあたっては、会社の設立目的が「一定程度」ではなく、最大限達成されるよう努力してほしいと訴えました。

そして最後に、尾瀬あきらの漫画、『夏子の酒』を紹介しながら、杜氏の郷である吉川について、「かつては何百人もの人が酒造りの出稼ぎに出かけた町。一年の半分、父ちゃんがいなかった。吉川というところは、春を待つ気持ち

がものすごく強い町だった。春は父ちゃんが帰る季節、家族が一つになる季節なんです。そういう思いをずっと抱きながら、これまでまちづくりに取り組んできた。この吉川の思いを最大限尊重して(民間譲渡に)取り組んでいただきたい」と訴えました。

中川市長は、「私も『夏子の酒』を持っている。この物語を読むと、本当に、最後に涙が出てくる。地元の皆さんの気持ちがこういうところから出ているんだろうなと想像しながら考えている。



行政運営をやるには感情で物事を考えてはいけませんが、その辺の感情もわかりながら、立ち向かっていることを橋爪議員にもわかっていただければ幸いです」と答えました。市長の、この言葉を信じて頑張りたいと思います。



【イチャクソウ】(再掲) ツツジ科の常緑の多年草。漢字で「一葉草」と書きます。花期は6月～7月、葉の中から花茎が20センチほど伸びます。竹やぶのなかで白い花が下を向いて咲いている姿は素敵です。花言葉は「恥じらい」です。写真は6月19日、吉川区内にて撮影しました。

地域自治推進で総務委調査

13日は総務常任委員会所の管事務調査でした。

地域自治推進プロジェクトに関しては、市が4月下旬から地域協議会に示した「地域の活力向上をめざす」諸資料などは議会にも示すこと、重要な進展があった場合は議会(総務委)に報告することを求めました。また、「地域独自予算」の事業実施を令和6年度以降とするなら、「(区)によつては)地域活動支援事業もない、地域独自の予算もない、事実上の空白期間が生まれる可能性がある」として、地域活動支援事業の再延長などの経過措置が必要になるのではないかと指摘しました。



委員に報告するのと答えました。空いた時間は、今後の動きに注目してください。

はしづめ法一の活動レポート

No.2066 2022.6.26
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七二三回 人に励まされて

お連れ合いを亡くし、まもなく半年になる女性がいいます。Hさん、八八歳。現在、山間部で一人暮らしをされています。

先日、ヒラ配りをしていたら、宅地のそばの畑で、麦わら帽子をかぶって草取りをしているHさんの姿が目に入りました。もちろん一人です。

隣の家の前庭を通過して畑に行くと、作業に夢中になっておられたのか、それとも耳が遠いのか、Hさんは黙々と草取りを続けていました。

私はマスクをあげまで下げ、「どうも。元気でいなかたかね」と声をかけました。最初は、「誰だろう」といった感じの受け止めだったのですが、Hさんは、「橋爪さんかね」と言っていて、私の顔を見てくださいました。

私がうなずくと、Hさんは、「ああ、良かった。橋爪さんのこと、わかりや、まだオシはおかしくなっていないね」と言っていて、喜びの顔になりました。

手押し車に座ったHさんをよく見ると、薄いピンクの花柄の長袖シャツにもんぺ姿でした。なかなかのおしゃれです。

そのHさん、最近、「物忘れ」が進んできたと言います。

「オシ、植えてすぐなるもんはトマトだと思っていたもんだすけ、トマトの苗、買ってきたが。でも、ナスやキュウリ、わすっちゃって」

Hさんは、雪が解けてから、いつものように自分の家で食べる野菜はそばの畑で作ろうと思ったのだそうです。でも、最初、野菜の苗として購入したのはトマトだけでした。その後、気づいて子どもさんからキュウリなどの苗を買ってきてもらったことでした。

そばにはキュウリの姿は確認できませんでしたが、遅れて購入したキュウリもすでに大きく育ち、収穫できているとか。この

間も、「キュウリ、たくさんとれたすけ、とりに来てくれ」そったが。でも、こらねてがで、冷蔵庫にしまったと言います。

Hさんは、話を続けます。

「おらったり、空き家が増えて、〇〇さんちと▲△さんは動物の棲み処(すみか)になってるが。そんで、なんかならんかねと区長さんに言ったら、さっそく草刈りしてくんなくて。オラの言うこと聞いてくんなくて。うれしかったあ」

「そりゃ、良かったねえ」

「オラ、一人になって、だあれも声かけてくんなんねかと思ったら、ありがたいもんだね。Nさんが朝早く、車に乗って仕事に出るとき、おらちの方をちらっと見て、プツと鳴らしてくんなる」

「そりゃ、助かるね」

「はい、人間にさせてもらってるがでね。おまさんも、こうして、こらまで上がってきて、声かけてくんなるなんて、ありがたいです。ばちや、元気がね」

「おかげさんで、元気がいいわね」

Hさんと話をしていると、驚いたのは、「人間にさせてもらっている」という言葉がその後も何度か出てきたことです。

そして、何の話の時だか忘れたのですが、手を合わせて私に感謝の気持ちを表してくださったのです。おそらく、Hさんに声をかけた他の人にもそうされているのだと思います。

一人暮らしになって半年、Hさんにとって、声をかけられたり、なんらかの働きかけを受けたりすることが生きていくうえで大きな励みになっているんですね。

この日は晴れて気温が上昇、三〇度前後になりました。外に長時間いることは危険です。「もうじきお昼になるし、あついですけ、家に入ってくんない。オシも帰るし」そう言うと、Hさんは、また手を合わせ、涙を浮かべておられました。

久しぶりに吉川区上川谷の地すべり現場へ

ニュースフラッシュ

3月中旬、吉川区上川谷地内で発生した地すべり現場を久しぶりに見てきました。

この日はたまたま石川県で大きな地震が発生したことから、下川谷で町内会長さんと合流し、上川谷の地すべり現場に行ってきました。地震による新たな地滑りが起きていないかどうかの確認がメインです。

現場ではボーリング調査をしている会社の方も心配して来ておられました。幸い、土砂などの動きはなかったようです。写真はモノレールと道路の一部が見えた場所。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月15日(水)	6月22日(水)
上越南消防署	0.053	0.050
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.043	0.047
名立分遣所	0.063	0.050
高士分遣所	0.053	0.040